

gusuku Customine

カスタマイズの歩き方

レコード取得編



なまえ

はじめに（この冊子の目的）

使いこなすとともに便利な gusuku Customine（以降**カスタマイン**と表記）。しかし、実現できることが多すぎるがゆえに使っていただいているお客様より「難しい」というお声をいただくこともあります。そこで、実際に役立つカスタマイズを作成しながらカスタマインの使い方にも慣れていただくための教材を用意しました。

この冊子では、様々なカスタマイズで利用可能な「レコード取得」機能にフォーカスして、「どのような要件のときに、どのやることを使用するべきか」を理解していただくことを目的とします。様々な「レコード取得」方法を習得していただくことで、実務に汎用的に活用していただければと思います。

この冊子で理解できること

1. レコード取得に関する「やること」の違い
2. 「やること」ごとの注意点・制約
3. 要件に応じた「やること」の選び方

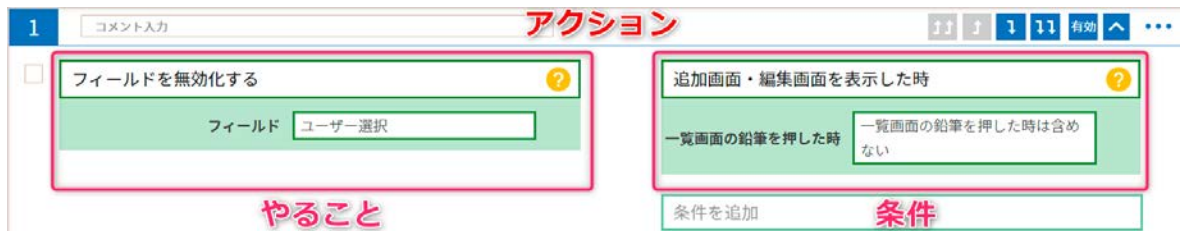
目次

1. はじめに理解していただきたいこと -----	4
2. レコード取得に関する「やること」一挙解説 -----	13
3. レコード取得を補完する「やること」 -----	30
4. 「やること」選択フローチャート -----	39
5. うまく動かないときは？ -----	40

1. はじめに理解していただきたいこと

1-1. 本書で使用する用語

本書ではカスタマイズの画面や用語を以下のように記載します。



アクション

カスタマイズの設定における 1 単位です。「やること」と「条件」を組み合わせた 1 セットが 1 つのアクションとなります。

やること

カスタマイズ設定画面の左側で選択する「やること」は、本書では [やること：フィールドを無効化する] のように記載します。

条件

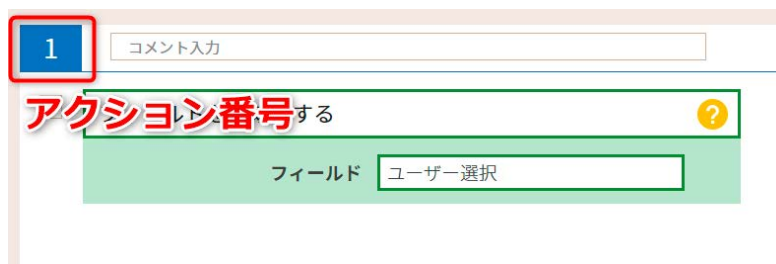
カスタマイズ設定画面の右側で選択する「条件」は、本書では < 条件：一覧画面を表示した時 > のように記載します。

追加条件

「条件」の下部で「条件を追加」を選択して設定する「追加条件」は、本書では < 追加条件：フィールド値が特定の値ならば > のように記載します。

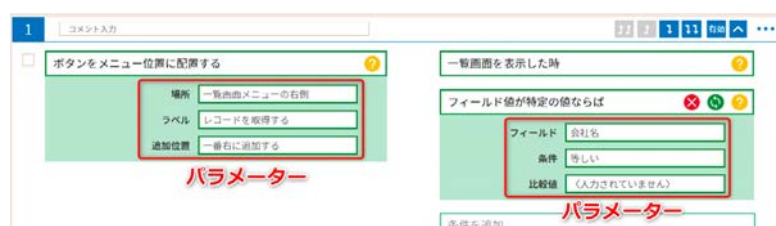
アクション番号

カスタマイズ設定画面で各アクション（設定）の左上の数字です。本書内で【アクション：1】と記載した場合には、アクション番号 1 番の設定を指します。



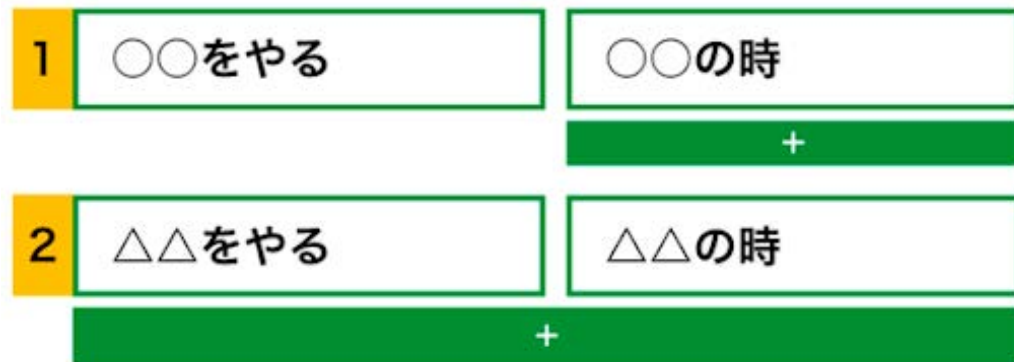
パラメーター

設定する「やること」や「条件」に応じて設定する項目のことをパラメーターと記載します。



1-2. カスタマインの基本的な構造

カスタマインの基本的な構造は「～の時に～ならば～する」を[やること]と<条件>を組み合わせ



という形で設定します。

この<条件>のドキュメント (<https://docs-customine.gusuku.io/ja/conditions/>) には「(追加条件)」と記載されている一覧があります。これは「～ならば」に該当するもので、<条件を追加>の箇所

で指定します。

<条件>と<条件を追加>は指定する場所が違うのでご注意ください。

1-3. カスタマインで作成したカスタマイズが動く仕組み

カスタマインで作成したカスタマイズは、ユーザーの画面操作に基づいて動く仕組みとなっています。

1-3-1. 画面ごとの特性

kintone にはいくつかの種類の画面があり、その画面ごとにできることが異なります。この画面ごとの特性を理解することで、よりスムーズにカスタマイズを作成できるようになります。

一覧画面は一画面で同時に複数のレコードを閲覧できる、表示に特化した画面です。そのため、カスタマイズにおいてもテーブルデータを表示できる一覧画面の作成など、画面表示に関するカスタマイズに適しています。鉛筆ボタンを押すことで編集もできますが、編集画面・追加画面と比較すると多くの制約があります。編集する際には1レコード単位の編集しかできず、編集後は<条件：一覧画面を表示した時>に該当しないのでカスタマイズが動作しません。また、一覧の編集画面以外の方法で値を変更した場合はリロードしない限り表示は変わりません。

追加・編集画面ではフィールド値を変更することが出来ませんが、保存ボタンを押すまでは変更が確定していないのでキャンセルボタンを押すと変更内容は破棄されます。

詳細画面は kintone の仕様ではフィールド値の更新は出来ないのですが、カスタマインが裏側でレコード更新処理をする事でフィールド値を更新しています。この場合は一覧画面での更新時と同じく値は変わっていますが表示は変わらないのでリロードが必要になります。

1-3-2. 同じやることでも画面によって動作が違う

例として、[やること：**フィールドに値をセットする**]というやること1つをとっても、以下のように画面によって違いがあります。

追加画面の場合

フィールドに値がセットされて、表示も変わる

編集画面の場合

フィールドに値がセットされて、表示も変わる

詳細画面の場合

フィールドに値はセットされているが、表示は変わらない
表示を更新するためにはリロードする必要がある

一覧画面の場合

画面に表示されている全レコードのフィールドに値がセットされて、表示は変わらない
表示を更新するためにはリロードする必要がある

一覧画面の鉛筆を押した編集画面

編集状態になっているレコードのフィールドに値がセットされて、表示も変わる

フィールド値がリアルタイムに変わるのは、kintone での操作と同じく追加画面・編集画面のみということにご注意ください。

コラム：フィールド名とフィールドコード

kintone の仕組みとして、フィールド値を参照する場合は「フィールドコード」を指定します。
kintone のフィールドには「フィールド名」と「フィールドコード」があるのでご注意ください。

簡単な見分け方としては、フィールドの個別設定画面で上にあるのが「フィールド名」で下にあるのが「フィールドコード」です。「フィールドコード」を明示的に指定しないと「文字列_1行_1」のように自動でフィールドコードが設定されるため、フィールドコードがどのフィールドを指すのか判別しづらくなります。そのため、フィールド名と同じ名称をつけたり、「フィールド名_アプリ名」のようにフィールドコードからフィールド名を類推しやすい名前にしておくことをおすすめします。

1-3-3. 自分が操作しているアプリでカスタマイズは動く

カスタマイズを作る際には「どのアプリで操作をしたときにカスタマイズを動かしたいか」を意識して作成する必要があります。

先程の「フィールドに値をセット」だと、表示しているアプリのフィールドに対してセットされますが、例えばこれを仮に別アプリのフィールドにセットしたい場合は「やること」が変わります。（「レコードを更新する（キーの値をフィールドで指定）」など）

コラム：これから「保存」するレコードのみが対象

カスタマイズで作成したカスタマイズは、今後操作するときに適用されるものであるため、過去に登録したレコードには適用されません。

例えばあるアプリを作成ししばらく運用した後に、レコード保存後にルックアップを自動更新するカスタマイズを作成したとしても、レコードを1つずつ保存していかないとルックアップは更新されません。ですので、カスタマイズ作成前に作成済みのレコードに対して更新しようとする、大変な手間がかかり実用的ではありません。このような場合には別の仕組みで更新する必要があります。

ルックアップの場合は、ルックアップフィールドの値を更新すれば取得できるので、全レコードを取得してルックアップフィールドだけを書き出せば可能です。また、CSV読み込みで一括更新する方法でも可能です。

同じような話で、検索用文字列作成があります。これもレコード保存時に文字列を作成しますが、過去のレコードは再保存が必要です。そして、検索文字列の場合はCSV読み込みでは作成できないので、何らかのカスタマイズが必要になります。

本冊子では詳細な説明を記載しませんが、既に存在しているデータに対して検索用文字列の生成を行いたい場合には、こちらのページをご参照ください。

大量のレコードを安全に処理する方法：検索文字列を作成する事例

（紙の場合：サポートサイトで「検索文字列を作成する事例」で検索してください）

<https://support.gusuku.io/ja-JP/support/solutions/articles/36000268083>

また、kintone にはユーザーの画面操作を通知する「イベント」という仕組みがあります。カスタマイズで作成したカスタマイズは基本的に、この「イベント」に基づいて動きます。

1-3-4. イベント

イベントとは、「ユーザーの画面操作したタイミングでプログラムを動かすための kintone の仕組み」であり、一例として以下のようなイベントが定義されています

1. レコード追加画面を開いた時
2. プロセス管理のアクションを実行した時
3. フィールドの値が変わった時

kintone の「イベント」については cybozu developer network のヘルプをご確認ください。

<https://developer.cybozu.io/hc/ja/articles/360000361686>

カスタマイズにおける「条件」は主にこの「イベント」を日本語に置き換えたものです。また、より使い勝手を向上するために kintone のイベント以外のものも「条件」として利用できるようになっています。

カスタマイズを作成するときには「実現したいこと」とともに「どのイベント」でその処理を実行したいかを意識し、「実現したいこと」→「やること」、「イベント」→「条件」に置き換えていただくとスムーズにカスタマイズが作れます。

例) レコード一覧画面表示後に注意すべき案件を色を変えて目立たせたい

実現したいこと：案件を色を変えて目立たせたい

イベント：レコード一覧画面表示後

↓

[やること：フィールド文字色を変更する]

< 条件：一覧画面を表示した時 >

例) 入力時にユーザーに警告を促すために特定のフィールドの背景色を変えたい

実現したいこと：背景色を変えて警告を促したい

イベント：フィールド値変更

↓

[やること：フィールド背景色を変更する]

< 条件：フィールドの値を編集して値が変わった時 >

また、イベントごとの特性や制約を理解することで、kintone の制約上実現できないことでも代替手段を検討することができます。

kintone の特性や制約によって実現できないことの例をあげますと、

kintone 側でイベントがない場合

イベントが発生しない場合

そのイベントでは実行できないカスタマイズの場合

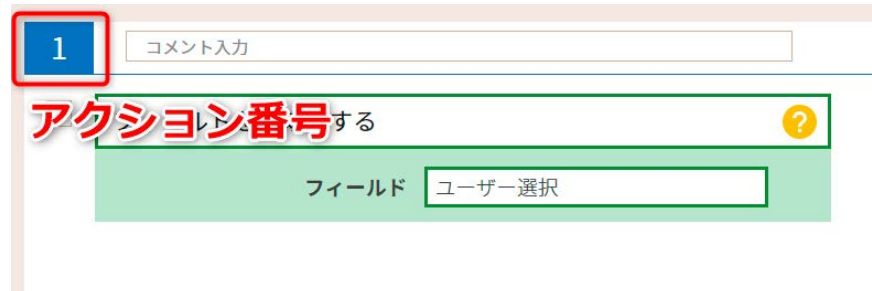
などがあり、例えば「フォームブリッジでデータが登録されたことを契機にカスタマイズを動かしたい」という要件は、「2. イベントが発生しない場合」に該当するためカスタマイズが動きません。

また、上記以外でも kintone 基本機能の「ファイルから読み込む」を使ってデータを読み込んだ際にもカスタマイズが動きませんが、これも kintone の制約によるものです。

1-4. 実行順序

カスタマイズでアクションを作成すると、番号が自動的に付与されます。

これはアクション番号と呼ばれるもので、カスタマイズの実行順とは関係ありません。



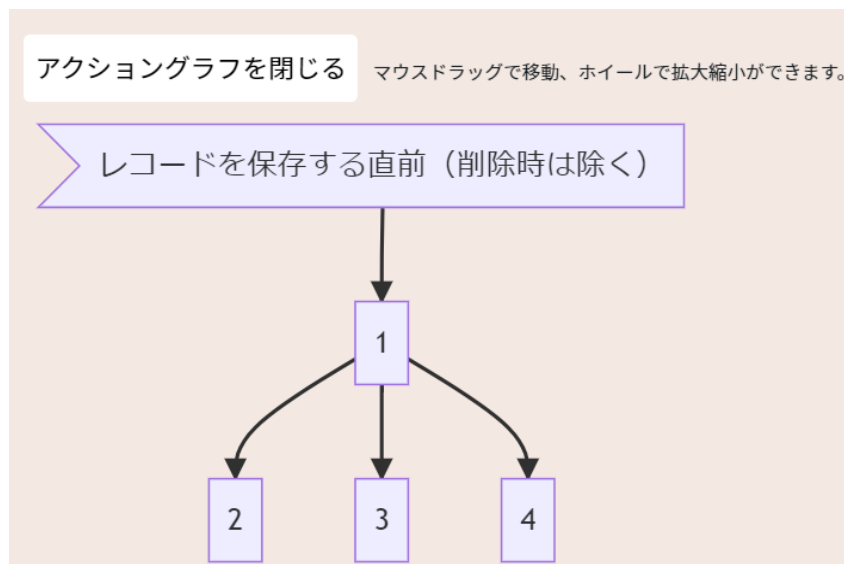
全てのアクションは何かの「イベント」を起点に処理が開始され、「他のアクションの実行が完了した時」や「確認・入力ダイアログで「OK」を押した時」などで繋がっている順に処理されます。

アクションの実行順をわかりやすく確認するにはアクショングラフを表示していただくのが良く、カスタマイズ作成途中や作成後に表示してこまめに確認することをおすすめします。

なお、上手く動かないケースでよくあるのが、線で繋がっていないアクションの結果を参照したり、アクションの繋ぎ先を間違えている場合です。

特にアクションを複製した場合に設定を変え忘れているというケースは良くあります。

また、以下のように＜条件：他のアクションの実行が完了した時＞で同じアクション番号を指定したアクションが複数ある場合は、並行して処理されます。



1

コメント入力

確認ダイアログを表示する

メッセージ入力

入力してください

OKボタンの名前

OK

キャンセルボタンの名前

キャンセル

レコードを保存する直前（削除時は除く）

条件を追加

2

コメント入力

必須チェックを行う

フィールド

A

エラーメッセージ

必須です。

他のアクションの実行が完了した時

アクション

1

条件を追加

3

コメント入力

必須チェックを行う

フィールド

B

エラーメッセージ

必須です。

他のアクションの実行が完了した時

アクション

1

条件を追加

4

コメント入力

必須チェックを行う

フィールド

C

エラーメッセージ

必須です。

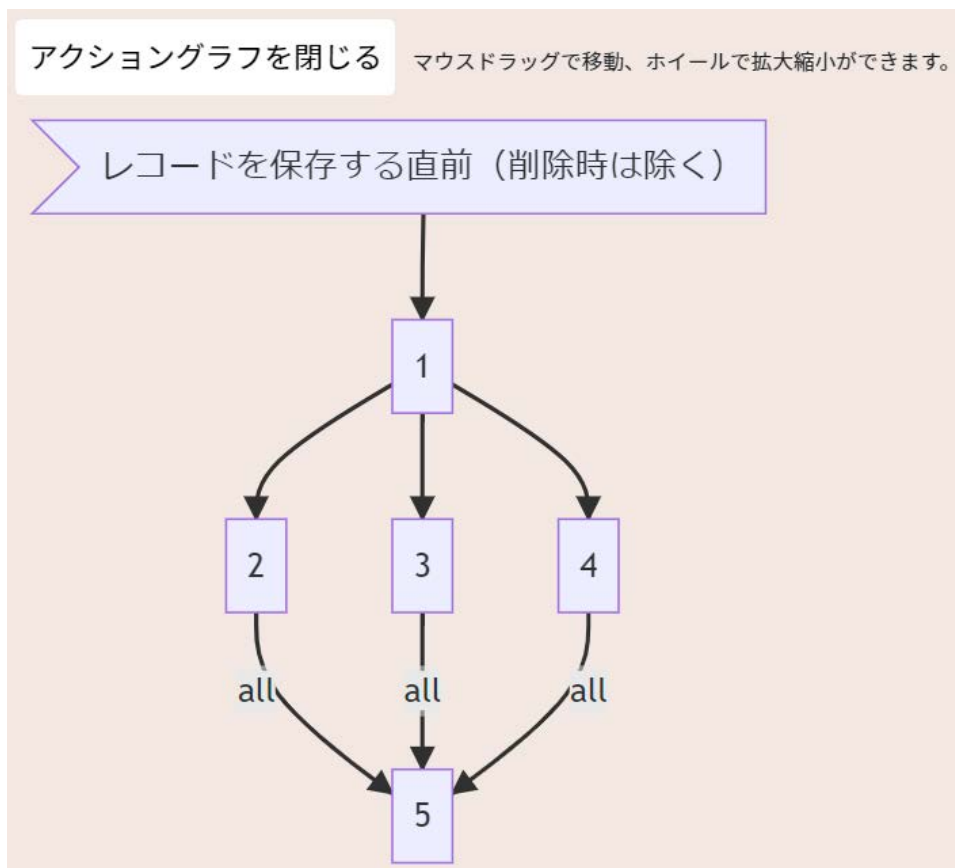
他のアクションの実行が完了した時

アクション

1

条件を追加

また、これら複数のアクションが全て終わった時に次のアクションを続ける場合は、＜条件：他のアクションの実行が完了した時＞で全てのアクションを指定してください。



1 コメント入力

確認ダイアログを表示する

メッセージ入力 入力してください

OKボタンの名前 OK

キャンセルボタンの名前 キャンセル

レコードを保存する直前（削除時は除く）

条件を追加

2 コメント入力

必須チェックを行う

フィールド A

エラーメッセージ 必須です。

他のアクションの実行が完了した時

アクション 1

条件を追加

3 コメント入力

必須チェックを行う

フィールド B

エラーメッセージ 必須です。

他のアクションの実行が完了した時

アクション 1

条件を追加

4 コメント入力

必須チェックを行う

フィールド C

エラーメッセージ 必須です。

他のアクションの実行が完了した時

アクション 1

条件を追加

5 コメント入力

フィールドに値をセットする

フィールド 状態

値 完了

他のアクションの実行が完了した時

アクション 2, 3, 4

条件を追加

その他にも <条件：いずれかのアクションの実行が完了した時> を使うと、指定したアクションのいずれかが完了した時にアクションが処理されます。

この条件は例えば、入力した金額によって処理を分ける場合などのようにどれか1つが実行された後、同じ処理が続くような場合に使います。

6 コメント入力

なにもしない

レコード追加・編集画面を表示した時またはフィールドの値を編集して値が変わった時

フィールド 状態

条件を追加

7 コメント入力

なにもしない

詳細画面を表示した時

条件を追加

8 コメント入力

フィールドやグループを表示する

フィールド テーブル

いずれかのアクションの実行が完了した時

アクション 6, 7

フィールド値が特定の値ならば

フィールド 状態

条件 等しい

比較値 対応

条件を追加

9 コメント入力

フィールドやグループを非表示にする

フィールド テーブル

いずれかのアクションの実行が完了した時

アクション 6, 7

フィールド値が特定の値でないならば

フィールド 状態

条件 等しい

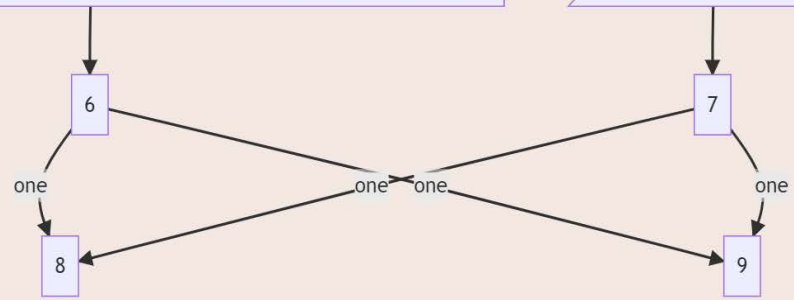
比較値 対応

アクショングラフを閉じる

マウスドラッグで移動、ホイールで拡大縮小ができます。

レコード追加・編集画面を表示した時またはフィールドの値を編集して値が変わった時

詳細画面を表示した時



2. レコード取得に関する「やること」

一挙解説

レコード取得に関する「やること」は「全レコードを取得する」「キーを指定してレコードを取得する」など、数多くの「やること」が用意されています。それぞれのやることで実現できることやカスタマイズ難易度に大きな違いがあるため、それぞれを順に解説します。

想定するアプリと解説の流れ

以下より実際のカスタマイズを作成しながら各やることの利用例、特徴を解説します。それぞれの違いをわかりやすくするために共通のアプリ、ほぼ共通のカスタマイズを作成していきます。

使用するアプリ

『案件管理』と『製品マスタ』アプリを使用します。

作成するカスタマイズ（2-1 ～ 2-4）

2-1 から 2-4 までで作成するカスタマイズは『案件管理』アプリに適用します。ボタンを押したときに『製品マスタ』アプリからレコードを取得し、取得した結果をわかりやすくするため[やること：[レコードの一覧をポップアップで表示する](#)]を使用してポップアップ表示するカスタマイズを作成します。

製品カテゴリ	製品コード	製品名	単価	課金対象期間	有効期間(開始)	有効期間(終了)
☐ kintone	k-0014	セキュリティアクセス	2940	年額	2022-04-01	2023-03-31
☐ kintone	k-0012	kintone ライトコース	9170	年額	2022-04-01	2023-03-31
☐ kintone	k-0011	kintone スタンダードコース	17640	年額	2022-04-01	2023-03-31
☐ kintone	k-0004	セキュリティアクセス	250	月額	2022-04-01	2023-03-31
☐ kintone	k-0003	kintone 旧価格	880	月額	2011-11-07	2019-03-31
☐ kintone	k-0002	kintone ライトコース	780	月額	2022-04-01	2023-03-31
☐ kintone	k-0001	kintone スタンダードコース	1500	月額	2022-04-01	2023-03-31

本来であれば取得したレコードをポップアップ表示した後は[やること：[フィールドに値をセットする](#)]や[やること：[テーブルをレコードに書き出す](#)]など、他のやることと組み合わせて使用しますが、本書ではレコード取得方法に重点を置いて説明するためそれらは割愛します。また、[やること：[ボタンをスペースに配置する](#)]や[やること：[レコードの一覧をポップアップで表示する](#)]についても本書では詳しく説明しません。

作成するカスタマイズ（2-5）

2-5 で作成するカスタマイズは『案件管理』アプリに適用する点は 2-1 ～ 2-4 と同様です。ボタンを押したときに自アプリである『案件管理』アプリからレコードを取得し、取得した結果をわか

りやすくするため[やること：レコードの一覧をポップアップで表示する]を使用してポップアップ表示するカスタマイズを作成します。

作成するカスタマイズの例（2-1 ～ 2-5）

以下のうち青枠の部分は共通のカスタマイズとなるため説明しません。赤枠で囲った部分が「レコード取得」に該当するアクションであり、それぞれのやることにおいて変わる部分です。

The image displays three screenshots of a customization interface, each with a title bar and a toolbar. The interface is divided into two main sections: a left section for configuration and a right section for action settings.

1. Screenshot 1 (Title: コメント入力): The left section is titled 'ボタンをスペースに配置する' (Configure button in space). It has fields for '場所' (Location) set to 'getProduct', 'ラベル' (Label) set to '製品情報取得' (Product information acquisition), and '上下位置合わせ' (Align vertically) set to '下寄せ' (Bottom align). The right section is titled '追加画面・編集画面を表示した時' (When adding/editing screen is displayed). It has a checkbox '一覧画面の鉛筆を押した時は含め' (Include when pencil is pressed on list screen) which is checked, and a text field '条件を追加' (Add condition).

2. Screenshot 2 (Title: コメント入力): The left section is titled 'キーを指定してレコードを取得する' (Get record by specifying key). It has fields for '取得先アプリ' (Get from app) set to '製品マスタ' (Product master), 'キーとなるフィールド' (Key field) set to '製品カテゴリ' (Product category), 'キーの値' (Key value) set to '=製品カテゴリ' (Product category), and '最大取得件数' (Max number of records) set to '<入力されていません>' (Not input). The right section is titled 'ボタンを押した時' (When button is pressed). It has a text field 'ボタン' (Button) set to '1' and a '条件を追加' (Add condition) button.

3. Screenshot 3 (Title: コメント入力): The left section is titled 'レコードの一覧をポップアップで表示する' (Display list of records in popup). It has fields for 'レコード' (Record) set to '2', '表示するフィールド' (Fields to display) set to '製品カテゴリ, 製品コード, 製品名, 半価, 課金対象期間, 有効期間 (開始), 有効期間 (終了)', '選択方法' (Selection method) set to '単一選択 (ラジオボタン)' (Single selection (radio button)), 'メッセージ入力' (Message input) set to '<入力されていません>' (Not input), 'OKボタンの名前' (OK button name) set to 'OK', 'キャンセルボタンの名前' (Cancel button name) set to 'キャンセル', '未選択を許可するか' (Allow unselected) set to '未選択でもOKを許可する' (Allow OK even if unselected), and 'テーブルの幅 (ピクセル)' (Table width (pixels)) set to '1000'. The right section is titled '他のアクションの実行が完了した時' (When execution of other action is completed). It has a text field 'アクション' (Action) set to '2' and a '条件を追加' (Add condition) button.

作成するカスタマイズ（2-6 ～ 2-8）

2-6 から 2-8 までで作成するカスタマイズも同様に『案件管理』アプリに適用しますが、少し動作に違いがあります。これは一覧画面にボタンを配置し、ボタンを押したときに動作するカスタマイズです。ボタンを押すと操作中のアプリである『案件管理』アプリのレコードを取得し、取得した結果をわかりやすくするため[やること：レコードの一覧をポップアップで表示する]を使用してポップアップ表示するカスタマイズを作成します。

※実際の用途では他のアプリから取得するケースが多いとは思いますが、本書ではカスタマイズ内容をわかりやすく表現するため操作中のアプリ（自アプリ）から取得する例で記載しています。

作成するカスタマイズの例（2-6 ～ 2-8）

以下のうち青枠の部分は共通のカスタマイズとなるため説明しません。赤枠で囲った部分が「レコード取得」に該当するアクションであり、それぞれのやることにおいて変わる部分です。

1
コメント入力
1 11 有効

☐

ボタンをメニュー位置に配置する

場所 一覧画面メニューの右側

ラベル レコードを取得する

追加位置 一番右に追加する

一覧画面を表示した時

条件を追加

2
コメント入力
1 11 有効

☐

一覧で画面に表示されているレコードを取得する

ボタンを押した時

ボタン 1

条件を追加

3
コメント入力
1 11 有効

☐

レコードの一覧をポップアップで表示する

レコード 2

表示するフィールド 会社名, 先方担当者, 見込み時期, 製品カテゴリ, 小計

選択方法 単一選択 (ラジオボタン)

メッセージ入力 <入力されていません>

OKボタンの名前 OK

キャンセルボタンの名前 キャンセル

未選択を許可するかどうか 未選択でもOKを許可する

テーブルの幅 (ピクセル) <入力されていません>

他のアクションの実行が完了した時

アクション 2

条件を追加

では、1 つ 1 つのやることについて解説していきます。

2-1. 全レコードを取得する

一番簡単かつシンプルに利用できるのが [やること : [全レコードを取得する](#)] です。

カスタマイズ例

この例では『製品マスタ』アプリから全レコードを取得します。

1
コメント入力
1 11 有効

☐

ボタンをスペースに配置する

場所 getProduct

ラベル 製品情報取得

上下位置合わせ 下寄せ

追加画面・編集画面を表示した時

一覧画面の鉛筆を押した時 一覧画面の鉛筆を押した時は含めない

条件を追加

2
コメント入力
1 11 有効

☐

全レコードを取得する

取得先アプリ 製品マスタ

ボタンを押した時

ボタン 1

条件を追加

3
コメント入力
1 11 有効

☐

レコードの一覧をポップアップで表示する

レコード 2

表示するフィールド 製品カテゴリ, 製品コード, 製品名, 単価, 課金対象期間, 有効期間 (開始), 有効期間 (終了)

選択方法 単一選択 (ラジオボタン)

メッセージ入力 <入力されていません>

OKボタンの名前 OK

キャンセルボタンの名前 キャンセル

未選択を許可するかどうか 未選択でもOKを許可する

テーブルの幅 (ピクセル) <入力されていません>

他のアクションの実行が完了した時

アクション 2

条件を追加

実行結果

	製品カテゴリー	製品コード	製品名	単価	課金対象期間	有効期間（開始）	有効期間（終了）
☐	kintone	k-0004	セキュアアクセス	250	月額	2022-04-01	2023-03-31
☐	kintone	k-0003	kintone 旧価格	880	月額	2011-11-07	2019-03-31
☐	kintone	k-0002	kintone ライトコース	780	月額	2022-04-01	2023-03-31
☐	kintone	k-0001	kintone スタンダードコース	1500	月額	2022-04-01	2023-03-31
☐	gusuku	g-0010	gusuku Deploy バックアップオプション（旧価格）	110000	年額	2015-11-09	2018-12-31
☐	gusuku	g-0009	gusuku Deploy バックアップオプション	120000	年額	2019-01-01	2023-03-31
☐	gusuku	g-0008	gusuku Deploy エンタープライズコース	120000	年額	2019-01-01	2023-03-31
☐	gusuku	g-0007	gusuku Deploy プロフェッショナルコース	48000	年額	2015-11-09	2023-03-31
☐	gusuku	g-0006	gusuku Deploy スタンダードコース	12000	年額	2015-11-09	2023-03-31
☐	gusuku	g-0005	gusuku Customine 月額（追加1アプリスロット）	6000	月額	2018-09-01	2023-03-31
☐	gusuku	g-0004	gusuku Customine 月額（4アプリスロット）	18000	月額	2018-09-01	2023-03-31

解説

[やること： **全レコードを取得する**] では、該当アプリに存在するすべてのレコードを取得します。設定はアプリを指定するだけのため簡単で、シンプルに他アプリのレコードを取得したい場合には有効です。ただし、すべてのレコードを取得するため必要のないレコードまで取得してしまったり、取得先アプリに大量のレコードが存在する場合には動作が遅くなったりするため、後述する [やること： **取得したレコードを絞り込む**] などと組み合わせ使っていただくのが良いと思います。

2-2. キーを指定してレコードを取得する

単一の条件に合致したレコードを取得する際に使用するのが [やること： **キーを指定してレコードを取得する**] です。

カスタマイズ例

この例では『案件管理』アプリの『製品カテゴリ』フィールドと『製品マスタ』アプリの『製品カテゴリ』フィールドが一致するレコードを取得します。

1 コメント入力

☐ ボタンをスペースに配置する

追加画面・編集画面を表示した時

一覧画面の鉛筆を押した時

条件を追加

2 コメント入力

☐ キーを指定してレコードを取得する

取得先アプリ

製品マスタ

キーとなるフィールド

製品カテゴリ

キーの値

製品カテゴリ

最大取得件数

（入力されていません）

「製品マスタ」アプリの「製品カテゴリ」フィールド

「案件管理」アプリの「製品カテゴリ」フィールド

3 コメント入力

☐ レコードの一覧をポップアップで表示する

レコード

2

表示するフィールド

製品カテゴリ, 製品コード, 製品名, 単価, 課金対象期間, 有効期間（開始）, 有効期間（終了）

選択方法

単 選択（ラジオボタン）

メッセージ入力

（入力されていません）

OKボタンの名前

OK

キャンセルボタンの名前

キャンセル

未選択を許可するかどうか

未選択でもOKを許可する

テーブルの幅（ピクセル）

1000

他のアクションの実行が完了した時

アクション

2

条件を追加

実行結果

製品カテゴリ
kintone ▼ 製品情報取得

↓

	製品カテゴリ	製品コード	製品名	単価	課金対象期間	有効期間（開始）	有効期間（終了）
☐	kintone	k-0014	セキュアアクセス	2940	年額	2022-04-01	2023-03-31
☐	kintone	k-0012	kintone ライトコース	9170	年額	2022-04-01	2023-03-31
☐	kintone	k-0011	kintone スタンダードコース	17640	年額	2022-04-01	2023-03-31
☐	kintone	k-0004	セキュアアクセス	250	月額	2022-04-01	2023-03-31
☐	kintone	k-0003	kintone 旧価格	880	月額	2011-11-07	2019-03-31
☐	kintone	k-0002	kintone ライトコース	780	月額	2022-04-01	2023-03-31
☐	kintone	k-0001	kintone スタンダードコース	1500	月額	2022-04-01	2023-03-31

OK キャンセル

解説

[やること： [キーを指定してレコードを取得する](#)] では、上記の例のようにカスタマイズ対象のアプリのフィールドと取得先のアプリのフィールドが一致するレコードを取得する用途に適しています（上記の例は「製品カテゴリ」フィールドで「kintone」を選択しているので、取得結果も「製品カテゴリ」が「kintone」のものだけを取得しています）。

「[2-1. 全レコードを取得する](#)」と同様に必要のないレコードまで取得してしまったり、取得先アプリに大量のレコードが存在する場合には動作が遅くなったりするため、後述する [やること： [取得したレコードを絞り込む](#)] などと組み合わせ使っていただくのが良いと思います。

2-3. 条件を組み立ててレコードを取得する

複数の条件でのレコード取得や取得と同時に並べ替えもできるのが [やること： [条件を組み立ててレコードを取得する](#)] です。 [やること： [キーを指定してレコードを取得する](#)] より更に絞り込んだ条件でレコードを取得することができます。

カスタマイズ例

この例では

1. 『課金対象期間』が「年額」
2. 『見込み時期』が有効期間内の製品である
3. 『単価』が100万円未満

というすべての条件を満たすレコードを取得します。また、併せて製品コードの昇順でレコードを並べ替えます。

1
コメント入力

ボタンをスペースに配置する

場所getProduct
ラベル製品情報取得
上下位置合わせ下寄せ

追加画面・編集画面を表示した時
一覧画面の鉛筆を押した時
条件を追加

2
コメント入力

条件を組み立ててレコードを取得する

取得元アプリ

[歩き方][レコード取得]製品マスタ
(課金対象期間 in ("年額"))
and (有効期間_開始 <= "{\$見込み時期}")
and (有効期間_終了 >= "{\$見込み時期}")
and (単価 < 1000000)
order by 製品コード asc
検索条件

最大取得件数

〈入力されていません〉

ボタンを押した時

ボタン1
条件を追加

条件ビルダーで設定する部分

3
コメント入力

レコードの一覧をポップアップで表示する

レコード

2

表示するフィールド

製品カテゴリ, 製品コード, 製品名, 単価, 課金対象期間, 有効期間 (開始), 有効期間 (終了)

選択方法

単一選択 (ラジオボタン)

メッセージ入力

〈入力されていません〉

OKボタンの名前

OK

キャンセルボタンの名前

キャンセル

未選択を許可するかどうか

未選択でもOKを許可する

テーブルの幅 (ピクセル)

〈入力されていません〉

他のアクションの実行が完了した時

アクション

2

条件を追加

「検索条件」の設定は一見するとクエリを書かないといけなように見えますが、実際の設定は以下のような「条件ビルダー」という機能を使って簡単に設定が可能です。条件ビルダーで以下のように条件を組み立てることで、自動的に「検索条件」として使用するクエリが生成されます。

条件ビルダー

全ての条件を満たす

条件1

課金対象期間

次のいずれかを含む

年額

+

-

条件2

有効期間 (開始)

≤ (以前)

日付を指定

{\$見込み時期}

挿入

+

-

条件3

有効期間 (終了)

≥ (以降)

日付を指定

{\$見込み時期}

挿入

+

-

条件4

単価

< (より小さい)

1000000

挿入

+

-

並び順

製品コード

昇順

+

-

OK

キャンセル

18

実行結果

見込み時期
2022-11-30
製品情報取得

	製品カテゴリ	製品コード	製品名	単価	課金対象期間	有効期間（開始）	有効期間（終了）
☐	gusuku	g-0002	gusuku Customine 年額10	648000	年額	2018-09-01	2023-03-31
☐	gusuku	g-0003	gusuku Customine 年額4	216000	年額	2018-09-01	2023-03-31
☐	gusuku	g-0006	gusuku Deployit スタンダードコース	12000	年額	2015-11-09	2023-03-31
☐	gusuku	g-0007	gusuku Deployit プロフェッショナルコース	48000	年額	2015-11-09	2023-03-31
☐	gusuku	g-0008	gusuku Deployit エンタープライズコース	120000	年額	2019-01-01	2023-03-31
☐	gusuku	g-0009	gusuku Deployit バックアップオプション	120000	年額	2019-01-01	2023-03-31
☐	kintone	k-0011	kintone スタンダードコース	17640	年額	2022-04-01	2023-03-31
☐	kintone	k-0012	kintone ライトコース	9170	年額	2022-04-01	2023-03-31
☐	kintone	k-0014	セキュアアクセス	2940	年額	2022-04-01	2023-03-31

OK
キャンセル

解説

このやることは 2022 年 7 月に機能追加されました！ それまでは、複雑な条件に基づいたレコード取得には [やること： [クエリで条件を指定してレコードを取得する](#)] を使用する必要があり、クエリの記法がわからない方にとって是非常に難易度の高いものでした。しかし、[やること： [条件を組み立ててレコードを取得する](#)] を使用することで、クエリの記法がわからない方であっても上の例のように複雑な条件に基づいたレコード取得ができるようになりました。

多くのレコード取得はこれで解決できますが、いくつか条件としてフィールド値や他のアクションの結果を条件ビルダーに指定できないケースがあります。例として、以下のようにラジオボタンフィールドでは固定値のみしか指定できません。

ラジオボタンフィールド

固定値のみ設定可能

固定値、フィールド値、他のアクションの結果、関数が指定可能

条件1 課金対象期間 次のいずれかを含む 年額 + -

条件2 有効期間（開始） ≤ (以前) 日付を指定 \${見込み時期} 挿入 + -

条件3 有効期間（終了） 日付フィールドを指定 \${見込み時期} 挿入 + -

条件4 単価 < (より小さい) 1000000 挿入 + -

数値フィールド

固定値、フィールド値、他のアクションの結果、関数が指定可能

ラジオボタンフィールドなど一部のフィールドにおいて、フィールド値や他のアクションの結果を使用したいときには、[やること： [クエリで条件を指定してレコードを取得する](#)] を使用していただく必要があります。

レコード取得に関する他のやることと比較すると新しく使えるようになったやることのため、利用したことのない方が多いとは思いますが、ぜひ試していただければと思います。

2-4. クエリで条件を指定してレコードを取得する

[やること： [条件を組み立ててレコードを取得する](#)] と同じように複数の条件でのレコード取得を行ったり、取得と同時に並べ替えもできるのが [やること： [クエリで条件を指定してレコードを取得する](#)] です。

レコード取得に関するやることの中で一番自由度は高くなりますが、一方でクエリの記法を理解する必要があるため難易度も一番高いものです。

カスタマイズ例

この例では

1. 『課金対象期間』が「年額」
2. 『見込み時期』が有効期間内の製品である
3. 『単価』が100万円未満

というすべての条件を満たすレコードを取得します。また、併せて製品コードの昇順で並べ替えます。

1

コメント入力

ボタンをスペースに配置する

場所getProduct

ラベル製品情報取得

上下位置合わせ下寄せ

追加画面・編集画面を表示した時

一覧画面の鉛筆を押した時

一覧画面の鉛筆を押した時は含めない

条件を追加

2

コメント入力

クエリで条件を指定してレコードを取得する

取得先アプリ製品マスタ

検索条件課金対象期間 in ("年額") and 有効期間_開始 <= "{見込み時期}" and 有効期間_終了 >= "{見込み時期}" and 単価 < 1000000 order by 製品コード asc

最大取得件数<入力されていません>

ボタンを押した時

ボタン1

条件を追加

3

コメント入力

レコードの一覧をポップアップで表示する

レコード2

表示するフィールド製品カテゴリ, 製品コード, 製品名, 単価, 課金対象期間, 有効期間 (開始), 有効期間 (終了)

選択方法単一選択 (ラジオボタン)

メッセージ入力<入力されていません>

OKボタンの名前OK

キャンセルボタンの名前キャンセル

未選択を許可するかどうか未選択でもOKを許可する

テーブルの幅 (ピクセル)1000

他のアクションの実行が完了した時

アクション2

条件を追加

実行結果

見込み時期
製品情報取得

2022-11-10

	製品カテゴリ	製品コード	製品名	単価	課金対象期間	有効期間（開始）	有効期間（終了）
☐	gusuku	g-0002	gusuku Customine 年額10	648000	年額	2018-09-01	2023-03-31
☐	gusuku	g-0003	gusuku Customine 年額4	216000	年額	2018-09-01	2023-03-31
☐	gusuku	g-0006	gusuku Deployit スタンダードコース	12000	年額	2015-11-09	2023-03-31
☐	gusuku	g-0007	gusuku Deployit プロフェッショナルコース	48000	年額	2015-11-09	2023-03-31
☐	gusuku	g-0008	gusuku Deployit エンタープライズコース	120000	年額	2019-01-01	2023-03-31
☐	gusuku	g-0009	gusuku Deployit バックアップオプション	120000	年額	2019-01-01	2023-03-31
☐	kintone	k-0011	kintone スタンダードコース	17640	年額	2022-04-01	2023-03-31
☐	kintone	k-0012	kintone ライトコース	9170	年額	2022-04-01	2023-03-31
☐	kintone	k-0014	セキュアアクセス	2940	年額	2022-04-01	2023-03-31

OK
キャンセル

解説

[やること： [クエリで条件を指定してレコードを取得する](#)] では、上記の例のように複数の条件に合致するレコードを取得したり、取得すると同時に指定した項目で並べ替えを行うことができます。

[やること： [条件を組み立ててレコードを取得する](#)] の条件ビルダーでフィールド値を指定できないフィールドでも、[やること： [クエリで条件を指定してレコードを取得する](#)] であれば自由にクエリを記述できるためより複雑な条件でのレコード取得ができます。

「検索条件」には以下のように kintone API の query パラメーターの記法に従って設定します。

5番の アクション結果

検索条件

課金対象期間 in ("{\$5}") and 有効
期間_開始 <= "{\$見込み時期}"

「見込み時期」 フィールドの値

※ query パラメーターの記法は kintone API の仕様であるため、カスタマイズのテクニカルサポートではクエリの記法についてはサポートいたしません。書き方がわからない場合には、「[2-3. 条件を組み立ててレコードを取得する](#)」を使うか、「[2-1. 全レコードを取得する](#)」や「[2-2. キーを指定してレコードを取得する](#)」と「[3-1. 取得したレコードを絞り込む](#)」を組み合わせでお使いください。

参考

kintone API のクエリの書き方の基本

<https://developer.cybozu.io/hc/ja/articles/900001057206>

レコードの取得 (GET) - レコードの一括取得 (クエリで条件を指定)

<https://developer.cybozu.io/hc/ja/articles/202331474#step2>

最初は使いづらい印象を感じてしまうかもしれませんが、理解してしまうと一番使い勝手が良いのがこの [やること : [クエリで条件を指定してレコードを取得する](#)] です。

2-5. 関連レコード一覧の条件でレコードを取得する

kintone アプリで予め設定されている、関連レコード一覧フィールドで設定された条件に従ってレコードを取得します。

カスタマイズ例

この例では「同一顧客案件一覧」という関連レコード一覧の条件でレコードを取得します。また、自レコードも条件に一致した場合には除外する設定としています。

1 コメント入力

☐ ボタンをスペースに配置する

場所

ラベル

上下位置合わせ

追加画面・編集画面を表示した時

一覧画面の鉛筆を押した時

条件を追加

2 コメント入力

☐ 関連レコード一覧の条件でレコードを取得する

関連レコード一覧フィールド

最大取得件数

自レコードも条件に一致した場合

ボタンを押した時

ボタン

条件を追加

3 コメント入力

☐ レコードの一覧をポップアップで表示する

レコード

表示するフィールド

選択方法

メッセージ入力

OKボタンの名前

キャンセルボタンの名前

未選択を許可するかどうか

テーブルの幅 (ピクセル)

他のアクションの実行が完了した時

アクション

条件を追加

実行結果

同一顧客案件取得

同一顧客案件一覧

	製品カテゴリ	確度	小計
☐	kintone	A	45,000 円
☐	kintone	A	45,000 円
☐	kintone	B	75,000 円
☐	kintone	A	75,000 円

↓

	確度	製品カテゴリ	見込み時期	小計
☐	A	kintone	2022-11-30	45000
☐	A	kintone	2022-11-30	45000
☐	B	kintone	2022-12-28	75000
☐	A	kintone	2023-02-10	75000

OK キャンセル

解説

[やること： **関連レコード一覧の条件でレコードを取得する**] は、文字通り関連レコード一覧の条件で設定された内容に従ってレコード取得を行います。関連レコード一覧が以下のように設定されている場合は、自アプリ（『案件管理』アプリ）から「会社名が一致」「見込み時期が今年以降」のレコードを取得し、見込み時期で昇順にソートして表示します。

※「表示するフィールド」の設定はカスタマイズの動作には影響を与えません。

特徴的なのは、関連レコード一覧の参照するアプリとして自アプリが指定されている場合、自レコードを取得する・しないを選択できる、という点です。このパラメーターは要件に応じて使い分けていただくのが良いと思います。

2-6. 一覧で画面に表示されているレコードを取得する

文字通り、現在一覧画面に表示されているレコードを取得します。このやることは「現在表示されているレコード」のみを取得する点に注意する必要があります。

カスタマイズ例

[やること：一覧で画面に表示されているレコードを取得する] にはパラメーターはありません。サンプルに、一覧画面に現在表示されているレコードのみを取得します。

1

コメント入力

ボタンをメニュー位置に配置する

場所

一覧画面メニューの右側

ラベル

レコードを取得する

追加位置

一番右に追加する

一覧画面を表示した時

条件を追加

2

コメント入力

一覧で画面に表示されているレコードを取得する

ボタンを押した時

ボタン

1

条件を追加

3

コメント入力

レコードの一覧をポップアップで表示する

レコード

2

表示するフィールド

会社名, 先方担当名, 見込み時期, 製品カテゴリ, 小計

選択方法

単一選択 (ラジオボタン)

メッセージ入力

<入力されていません>

OKボタンの名前

OK

キャンセルボタンの名前

キャンセル

未選択を許可するかどうか

未選択でもOKを許可する

テーブルの幅 (ピクセル)

<入力されていません>

他のアクションの実行が完了した時

アクション

2

条件を追加

実行結果

案件一覧

レコードを取得する

1 - 20 (60件中)

	会社名	先方担当者	見込み時期	種別	製品カテゴリ	単価	ユーザー数	小計	
	田中マーケティングテクノロジー	田中 浩二	2022-11-30	A	kintone	1,500	30	45,000 円	
	山田商事株式会社	山田 貴文	2022-12-07	B	gusuku	1,500	200	300,000 円	
	ヴィクトリーフィールド株式会社	松井 義昭	2023-01-26	A	Garoon	800	500	400,000 円	
	田中マーケティングテクノロジー	山上 肇	2022-12-28	B	kintone	1,500	50	75,000 円	
	石井精密機械工業	石井 太郎	2022-09-22	C	gusuku	800	100	80,000 円	
	マネープラットフォーム株式会社	栗田 大樹	2023-02-28	B	gusuku	800	100	80,000 円	

表示されている
20件のみ取得

会社名	先方担当者	見込み時期	製品カテゴリー	小計
○ 田中マーケティングテクノロジー	田中 浩二	2022-11-30	kintone	45000
○ 山田商事株式会社	山田 貴文	2022-12-07	gusuku	300000
○ ヴィクトリーフィールド株式会社	松井 義昭	2023-01-26	Garoon	400000
○ 田中マーケティングテクノロジー	山上 肇	2022-12-28	kintone	75000
○ 石井精密機械工業	石井 太郎	2022-09-22	gusuku	80000
○ マネープラットフォーム株式会社	栗田 大樹	2023-02-28	gusuku	80000
○ 田中マーケティングテクノロジー	山田 貴子	2023-02-10	kintone	75000
○ メディカルアライアンス株式会社	佐藤 正義	2023-01-31	kintone	150000
○ 東邦ホームズ	森本 隆	2022-10-31	kintone	570000
○ 西高ビューティ	西高 美穂子	2023-01-30	gusuku	10000
○ サイト商事株式会社	斎藤 直樹	2023-01-20	kintone	12500

OK

キャンセル

25

解説

先述の通り一覧で画面に表示されているレコードのみを取得します。そのため、一覧の条件に一致するレコードが 60 件あっても、以下の設定では 20 件しか表示されていないため、この場合は 20 件のレコードのみが取得され、残りの 40 件は取得できません。



表示されているレコードではなく、一覧の条件に合致したすべてのレコードを取得したい場合には、次に紹介する「2-7. 一覧の条件でレコードを全件取得する」を使用します。

2-7. 一覧の条件でレコードを全件取得する

画面に表示されている・いないに関わらず、現在表示している一覧の絞り込み条件に合致するすべてのレコードを取得します。

カスタマイズ例

[やること： [一覧の条件でレコードを全件取得する](#)] にはパラメーターはありません。一覧の絞り込み条件に一致するすべてのレコードを取得します。

The image shows three sequential screenshots of a customization interface for a list view. Each screenshot has a blue header bar with a tab number (1, 2, or 3) and a 'コメント入力' (Input Comment) field. The interface is divided into two main columns: a left column for configuration and a right column for triggers and actions.

- Screenshot 1:** The left column has a checkbox 'ボタンをメニュー位置に配置する' (Place button in menu position) with fields for '場所' (Location: '一覧画面メニューの右側'), 'ラベル' (Label: 'レコードを取得する'), and '追加位置' (Add position: '一番右に追加する'). The right column has a trigger '一覧画面を表示した時' (When the list screen is displayed) and an '条件を追加' (Add condition) button.
- Screenshot 2:** The left column has a checkbox '一覧の条件でレコードを全件取得する' (Retrieve all records based on list conditions). The right column has a trigger 'ボタンを押した時' (When a button is pressed) with a 'ボタン' (Button) field set to '1', and an '条件を追加' (Add condition) button.
- Screenshot 3:** The left column has a checkbox 'レコードの一覧をポップアップで表示する' (Display list of records in a popup) with fields for 'レコード' (Record: '2'), '表示するフィールド' (Fields to display: '会社名, 先方担当者, 見込み時期, 製品カテゴリ, 小計'), '選択方法' (Selection method: '単一選択 (ラジオボタン)'), 'メッセージ入力' (Message input: '<入力されていません>'), 'OKボタンの名前' (OK button name: 'OK'), 'キャンセルボタンの名前' (Cancel button name: 'キャンセル'), '未選択を許可するかどうか' (Allow unselected? '未選択でもOKを許可する'), and 'テーブルの幅 (ピクセル)' (Table width (pixels): '<入力されていません>'). The right column has a trigger '他のアクションの実行が完了した時' (When other actions are completed) with an 'アクション' (Action) field set to '2', and an '条件を追加' (Add condition) button.

実行結果

案件一覧

レコードを取得する

1 - 20 (60件中)

会社名	先方担当者	見込み時期	確度	製品カテゴリ	単価	ユーザー数	小計	
田中マーケティングテクノロジー	田中 浩二	2022-11-30	A	kintone	1,500	30	45,000 円	
山田商事株式会社	山田 貴文	2022-12-07	B	gusuku	1,500	200	300,000 円	
ヴィクトリーフィールド株式会社	松井 義昭	2023-01-26	A	Garoon	800	500	400,000 円	
田中マーケティングテクノロジー	山上 肇	2022-12-28	B	kintone	1,500	50	75,000 円	
石井精密機械工業	石井 太郎	2022-09-22	C	gusuku	800	100	80,000 円	
マネープラットフォーム株式会社	柴田 大将	2023-02-28	B	gusuku	800	100	80,000 円	



60件すべて取得

会社名	先方担当者	見込み時期	製品カテゴリ	小計
☐ 田中マーケティングテクノロジー	田中 浩二	2022-11-30	kintone	45000
☐ 山田商事株式会社	山田 貴文	2022-12-07	gusuku	300000
☐ ヴィクトリーフィールド株式会社	松井 義昭	2023-01-26	Garoon	400000
☐ 田中マーケティングテクノロジー	山上 肇	2022-12-28	kintone	75000
☐ 石井精密機械工業	石井 太郎	2022-09-22	gusuku	80000
☐ マネープラットフォーム株式会社	柴田 大将	2023-02-28	gusuku	80000
☐ 田中マーケティングテクノロジー	山田 雅子	2023-02-10	kintone	75000
☐ メディカルアライアンス株式会社	佐藤 正義	2023-01-31	kintone	150000
☐ 東邦ホームズ	森本 隆	2022-10-31	kintone	570000
☐ 吉高ビューティ	吉高 美智子	2023-01-30	gusuku	10000
☐ サイト商事株式会社	斎藤 直樹	2023-01-20	kintone	22500

OK キャンセル

解説

取得されるレコードは、kintone を操作しているユーザーが現在開いている一覧の絞り込み条件（以下画像参照）で設定された条件に基づいて取得されます。

絞り込む

? ヘルプ

条件

見込み時期 = (等しい) 今年

確度 次のいずれかを含む

-
- ✓ A
- ✓ B
- C

すべての条件を満たす いずれかの条件を満たす

上記の場合、一覧画面の絞り込み条件で「見込み時期が今年」「確度 A もしくは B を含む」という設定がされているため、この条件に該当するレコードがすべて取得されることとなります。

2-8. 一覧で選択されたレコードを取得する

一覧に設置したチェックボックスで選択されたレコードを取得します。チェックしたレコードを取得して一括で変換する、別アプリに転記するなど、多くの用途で活用いただくことができます。

カスタマイズ例

1

コメント入力

1

11

有効

へ

...

☐ 一覧にチェックボックス列を追加する ?

一覧画面を表示した時 ?

条件を追加

2

コメント入力

1

1

1

11

有効

へ

...

☐ ボタンをメニュー位置に配置する ?

一覧画面を表示した時 ?

条件を追加

場所

一覧画面メニューの右側

ラベル

チェックしたレコードを取得

追加位置

一番右に追加する

3

コメント入力

1

1

1

11

有効

へ

...

☐ 一覧で選択されたレコードを取得する ?

ボタンを押した時 ?

条件を追加

ボタン

2

4

コメント入力

1

1

1

11

有効

へ

...

☐ レコードの一覧をポップアップで表示する ?

他のアクションの実行が完了した時 ?

条件を追加

レコード

3

表示するフィールド

会社名, 製品カテゴリ, 確度, 見込み
時期, 小計

選択方法

単一選択 (ラジオボタン)

メッセージ入力

〈入力されていません〉

OKボタンの名前

OK

キャンセルボタンの名前

キャンセル

未選択を許可するかどうか

未選択でもOKを許可する

テーブルの幅 (ピクセル)

〈入力されていません〉

アクション

3

実行結果

案件一覧								
チェックしたレコードを取得								
1 - 20 (60件中)								
☐	会社名	先方担当者	見込み時期	確度	製品カテゴリ	単価	ユーザー数	小計
☐	田中マーケティングテクノロジー	田中 浩二	2022-11-30	A	kintone	1,500	30	45,000 円
☒	山田商事株式会社	山田 貴文	2022-12-07	B	gusuku	1,500	200	300,000 円
☒	ヴィクトリーフィールド株式会社	松井 義昭	2023-01-26	A	Garoon	800	500	400,000 円
☐	田中マーケティングテクノロジー	山田 肇	2022-12-28	B	kintone	1,500	50	75,000 円
☒	石井精密機械工業	石井 太郎	2022-09-22	C	gusuku	800	100	80,000 円
☐	マネープラットフォーム株式会社	柴田 大莉	2023-02-28	B	gusuku	800	100	80,000 円
☒	田中マーケティングテクノロジー	山田 雅子	2023-02-10	A	kintone	1,500	50	75,000 円



	会社名	製品カテゴリ	確度	見込み時期	小計
☐	山田商事株式会社	gusuku	B	2022-12-07	300000
☐	ヴィクトリーフィールド株式会社	Garoon	A	2023-01-26	400000
☐	石井精密機械工業	gusuku	C	2022-09-22	80000
☐	田中マーケティングテクノロジー	kintone	A	2023-02-10	75000

解説

[やること：一覧で選択されたレコードを取得する] は [やること：一覧にチェックボックス列を追加する]、[やること：ボタンをメニュー位置に配置する] と組み合わせて使用します。

3 つのやことを組み合わせることにより、一覧にチェックボックスを配置し、そのチェックボックスで選択されたレコードを取得することが可能となります。

3. レコード取得を補完する「やること」

ここまで 8 種類の「やること」について解説しました。それぞれの「やること」は単独で使うことももちろん可能ですが、要件によっては以下に紹介する「やること」と組み合わせることでより便利に活用していただけるケースがあります。

3-1. 取得したレコードを絞り込む

「2. レコード取得に関する「やること」一挙解説」で紹介した 8 種類の「やること」に続けて [やること：取得したレコードを絞り込む] を使用すると、取得したレコードを更に条件に応じて絞り込むことができます。

想定される利用ケースとしては、複雑な条件でレコードを取得したいけれど、クエリの記法がわからず [やること：クエリで条件を指定してレコードを取得する] では思うようにカスタマイズ作れないケースが挙げられます。

以下の例はいずれも同じように「製品カテゴリが一致」し、「単価が 100 万円未満」のレコードを取得しています。

[やること：クエリで条件を指定してレコードを取得する] を使用した場合

1

コメント入力

ボタンをスペースに配置する

場所getProduct

ラベル製品情報取得

上下位置合わせ下寄せ

追加画面・編集画面を表示した時

一覧画面の鉛筆を押した時

条件を追加

2

コメント入力

クエリで条件を指定してレコードを取得する

取得先アプリ[歩き方][レコード取得]製品マスタ

検索条件製品カテゴリ in ("{\$製品カテゴリ}") and 単価 < 1000000

最大取得件数<入力されていません>

ボタンを押した時

ボタン1

条件を追加

3

コメント入力

レコードの一覧をポップアップで表示する

レコード2

表示するフィールド製品カテゴリ, 製品コード, 製品名, 単価, 課金対象期間

選択方法単一選択 (ラジオボタン)

メッセージ入力<入力されていません>

OKボタンの名前OK

キャンセルボタンの名前キャンセル

未選択を許可するかどうか未選択でもOKを許可する

テーブルの幅 (ピクセル)<入力されていません>

他のアクションの実行が完了した時

アクション2

条件を追加

[やること：取得したレコードを絞り込む] を使用した場合

1 コメント入力

☐ ボタンをスペースに配置する

追加画面・編集画面を表示した時

一覧画面の追加を押した時

条件を追加

2 コメント入力

☐ キーを指定してレコードを取得する

取得先アプリ

キーとなるフィールド

キーの値

最大取得件数

ボタンを押した時

ボタン

条件を追加

3 コメント入力

☐ 取得したレコードを絞り込む

元のレコード

条件になるフィールド

条件

比較値

他のアクションの実行が完了した時

アクション

条件を追加

4 コメント入力

☐ レコードの一覧をポップアップで表示する

レコード

表示するフィールド

選択方法

メッセージ入力

OKボタンの名前

キャンセルボタンの名前

未選択を許可するかどうか

テーブルの幅 (ピクセル)

他のアクションの実行が完了した時

アクション

条件を追加

実行結果

	製品カテゴリー	製品コード	製品名	単価	課金対象期間
☐	kintone	k-0014	セキュアアクセス	2940	年額
☐	kintone	k-0012	kintone ライトコース	9170	年額
☐	kintone	k-0011	kintone スタンダードコース	17640	年額
☐	kintone	k-0004	セキュアアクセス	250	月額
☐	kintone	k-0003	kintone 旧価格	880	月額
☐	kintone	k-0002	kintone ライトコース	780	月額
☐	kintone	k-0001	kintone スタンダードコース	1500	月額

OK キャンセル

解説

2 つのカスタマイズでは異なるやることを設定していますが、最終的な実行結果は同じものとなっています。

[やること： [クエリで条件を指定してレコードを取得する](#)] を使用している場合には <アクション :2> のみでレコード取得を行っています。

一方、[やること： [取得したレコードを絞り込む](#)] を使用しているカスタマイズでは、[やること： [キーを指定してレコードを取得する](#)] で製品カテゴリーが一致するレコードを取得した後、[やること： [取得](#)

したレコードを絞り込む]で単価が100万円未満のレコードに絞り込みをしています。

このように、[やること：取得したレコードを絞り込む]を使用すると一旦取得したレコードを更に絞り込むことができます。また、[やること：取得したレコードを絞り込む]は繰り返し使用することが可能なため、今回は「製品カテゴリが一致」、「単価が100万円未満」という2つの条件で絞り込みを行いました。更に追加で「更新日時が今月」という条件で絞り込むことが可能です。本書では記載しませんが、ぜひご自身でお試ください。

注意点

[やること：取得したレコードを絞り込む]はクエリの記法がわからない方でも利用できるというメリットがありますが、一方で注意点もあります。

[やること：クエリで条件を指定してレコードを取得する]や[やること：条件を組み立ててレコードを取得する]でレコードを取得した場合は、kintone からレコードを取得する段階で該当するレコードのみに絞って取得しています。一方、[やること：取得したレコードを絞り込む]を使用する場合、一旦 kintone から操作するユーザーの PC（ブラウザ）に取得したレコードを絞り込むという動作になります。そのため、元のレコードが大量にある場合には、処理が重くなる（画面動作が遅くなる）可能性があります。

違いを以下に図示します。

「クエリで条件を指定してレコードを取得する」を使用

kintone 製品マスタアプリ

製品カテゴリ	製品コード	製品名	単価	課金対象期間	有効期間（開始）	有効期間（終了）	
gusuku	g-0001	gusuku Customine 年額1000	1,200,000 円	年額	2018-09-01	2023-03-31	✓
gusuku	g-0002	gusuku Customine 年額10	648,000 円	年額	2018-09-01	2023-03-31	✓
gusuku	g-0003	gusuku Customine 年額4	216,000 円	年額	2018-09-01	2023-03-31	✓
gusuku	g-0004	gusuku Customine 月額（4アプリスロット）	18,000 円	月額	2018-09-01	2023-03-31	✓
gusuku	g-0005	gusuku Customine 月額（追加1アプリスロット）	6,000 円	月額	2018-09-01	2023-03-31	✓
gusuku	g-0006	gusuku Deployt スタンダードコース	12,000 円	年額	2015-11-09	2023-03-31	✓
gusuku	g-0007	gusuku Deployt プロフェッショナルコース	48,000 円	年額	2015-11-09	2023-03-31	✓
gusuku	g-0008	gusuku Deployt エンタープライズコース	120,000 円	年額	2019-01-01	2023-03-31	✓
gusuku	g-0009	gusuku Deployt バックアップオプション	120,000 円	年額	2019-01-01	2023-03-31	✓

100万件

条件に合致したレコード(7件)のみを取得

製品カテゴリ	製品コード	製品名	単価	課金対象期間
☐	kintone	k-0014	セキュアアクセス	2940 年額
☐	kintone	k-0012	kintone ライトコース	9170 年額
☐	kintone	k-0011	kintone スタンダードコース	17640 年額
☐	kintone	k-0004	セキュアアクセス	250 月額
☐	kintone	k-0003	kintone 旧価格	880 月額
☐	kintone	k-0002	kintone ライトコース	780 月額
☐	kintone	k-0001	kintone スタンダードコース	1500 月額

操作しているユーザーのPC(ブラウザ)

「キーを指定してレコードを取得する」+「取得するレコードを絞り込む」を使用

kintone 製品マスタアプリ

製品カテゴリ	製品コード	製品名	単価	課金対象期間	有効期限 (開始)	有効期限 (終了)	
gutsuku	g-0001	gutsuku Customine 年額100	1,200,000 円	年額	2019-09-01	2023-03-31	✓
gutsuku	g-0002	gutsuku Customine 年額10	640,000 円	年額	2019-09-01	2023-03-31	✓
gutsuku	g-0003	gutsuku Customine 年額4	216,000 円	年額	2019-09-01	2023-03-31	✓
gutsuku	g-0004	gutsuku Customine 月額 (Kアプリ/2アカウント)	16,000 円	月額	2019-09-01	2023-03-31	✓
gutsuku	g-0005	gutsuku Customine 月額 (Kアプリ/2アカウント)	6,000 円	月額	2019-09-01	2023-03-31	✓
gutsuku	g-0006	gutsuku Deplot スタンダードコース	12,000 円	年額	2019-11-09	2023-03-31	✓
gutsuku	g-0007	gutsuku Deplot プリアクティベーションコース	40,000 円	年額	2019-11-09	2023-03-31	✓
gutsuku	g-0008	gutsuku Deplot エンタープライズコース	120,000 円	年額	2019-01-01	2023-03-31	✓
gutsuku	g-0009	gutsuku Deplot パッケージオプション	120,000 円	年額	2019-01-01	2023-03-31	✓

100万件



「キーを指定してレコードを取得」で一旦取得

gutsuku	g-0001	gutsuku Customine 年額100	1,200,000 円	年額	2019-09-01	2023-03-31	✓
gutsuku	g-0002	gutsuku Customine 年額10	640,000 円	年額	2019-09-01	2023-03-31	✓
gutsuku	g-0003	gutsuku Customine 年額4	216,000 円	年額	2019-09-01	2023-03-31	✓
gutsuku	g-0004	gutsuku Customine 月額 (Kアプリ/2アカウント)	16,000 円	月額	2019-09-01	2023-03-31	✓
gutsuku	g-0005	gutsuku Customine 月額 (Kアプリ/2アカウント)	6,000 円	月額	2019-09-01	2023-03-31	✓
gutsuku	g-0006	gutsuku Deplot スタンダードコース	12,000 円	年額	2019-11-09	2023-03-31	✓
gutsuku	g-0007	gutsuku Deplot プリアクティベーションコース	40,000 円	年額	2019-11-09	2023-03-31	✓
gutsuku	g-0008	gutsuku Deplot エンタープライズコース	120,000 円	年額	2019-01-01	2023-03-31	✓
gutsuku	g-0009	gutsuku Deplot パッケージオプション	120,000 円	年額	2019-01-01	2023-03-31	✓

50万件

「取得したレコードを絞り込む」で
条件に合致したレコード(7件)に絞り込む

製品カテゴリ	製品コード	製品名	単価	課金対象期間
☐	kintone	k-0014	セキュアアクセス	2940 年額
☐	kintone	k-0012	kintone ライトコース	9170 年額
☐	kintone	k-0011	kintone スタンダードコース	17640 年額
☐	kintone	k-0004	セキュアアクセス	250 月額
☐	kintone	k-0003	kintone 日曜版	880 月額
☐	kintone	k-0002	kintone ライトコース	780 月額
☐	kintone	k-0001	kintone スタンダードコース	1500 月額

操作しているユーザーのPC(ブラウザ)

上記はかなり極端な例ですが、[やること : **キーを指定してレコードを取得する**] の実行結果が 50 万件あった場合、仮にその後 [やること : **取得したレコードを絞り込む**] を使用して 7 件に絞り込んだとしても、ユーザーの PC (ブラウザ) にはいったん 50 万件のデータが取得されるため、とても処理が遅く (重く) なると考えられます。

そのため、大量のデータを取得する場合には [やること : **クエリで条件を指定してレコードを取得する**] もしくは [やること : **条件を組み立ててレコードを取得する**] を使用していただくのが好ましいといえます。

3-2. レコードを並べ替える

「2. レコード取得に関する「やること」一挙解説」で紹介した 8 種類の「やること」に続けて [やること：[レコードを並べ替える](#)] を使用すると、取得したレコードの表示を並べ替えることができます。

※このやることは、一旦取得したレコードを後続のアクションで使用するために並べ替えるものであり、kintone の画面上の表示を並べ替えるためのものではありません。

カスタマイズ例：[やること：[レコードを並べ替える](#)] を使用しない場合

実行結果：[やること：[レコードを並べ替える](#)] を使用しない場合

	製品カテゴリー	製品コード	製品名	単価	課金対象期間
☐	kintone	k-0014	セキュアアクセス	2940	年額
☐	kintone	k-0012	kintone ライトコース	9170	年額
☐	kintone	k-0011	kintone スタンダードコース	17640	年額
☐	kintone	k-0004	セキュアアクセス	250	月額
☐	kintone	k-0003	kintone 旧価格	880	月額
☐	kintone	k-0002	kintone ライトコース	780	月額
☐	kintone	k-0001	kintone スタンダードコース	1500	月額

OK

キャンセル

カスタマイズ例：[やること：レコードを並べ替える] を使用した場合

1 コメント入力

ボタンをスペースに配置する

場所: getProduct

ラベル: 製品情報取得

上下位置合わせ: 中央寄せ

追加画面・編集画面を表示した時

一覧画面の鉛筆を押した時: 一覧画面の鉛筆を押した時は含めない

条件を追加

2 コメント入力

キーを指定してレコードを取得する

取得先アプリ: [歩き方][レコード取得]製品マスタ

キーとなるフィールド: 製品カテゴリ

キーの値: 製品カテゴリ

最大取得件数: <入力されていません>

ボタンを押した時

ボタン: 1

条件を追加

3 コメント入力

レコードを並べ替える

レコード選択アクション: 2

キーとなるフィールド(1): 単価

並び順(1): 昇順

キーとなるフィールド(2): <選択されていません>

並び順(2): 昇順

キーとなるフィールド(3): <選択されていません>

並び順(3): 昇順

他のアクションの実行が完了した時

アクション: 2

条件を追加

4 コメント入力

レコードの一覧をポップアップで表示する

レコード: 3

表示するフィールド: 製品カテゴリ, 製品コード, 製品名, 単価, 課金対象期間

選択方法: 単一選択 (ラジオボタン)

メッセージ入力: <入力されていません>

OKボタンの名前: OK

キャンセルボタンの名前: キャンセル

未選択を許可するかどうか: 未選択でもOKを許可する

テーブルの幅 (ピクセル): <入力されていません>

他のアクションの実行が完了した時

アクション: 3

条件を追加

実行結果：[やること：レコードを並べ替える] を使用した場合

	製品カテゴリ	製品コード	製品名	単価	課金対象期間
○	kintone	k-0004	セキュアアクセス	250	月額
○	kintone	k-0002	kintone ライトコース	780	月額
○	kintone	k-0003	kintone 旧価格	880	月額
○	kintone	k-0001	kintone スタンダードコース	1500	月額
○	kintone	k-0014	セキュアアクセス	2940	年額
○	kintone	k-0012	kintone ライトコース	9170	年額
○	kintone	k-0011	kintone スタンダードコース	17640	年額

OK キャンセル

解説

上記の通り、[やること： **レコードを並べ替える**] を使用すると任意のフィールドをキーとして取得したレコードを並べ替えることができます。「**2. レコード取得に関する「やること」一挙解説**」で紹介した 8 種類のやることすべての後続アクションとして利用可能ですが、[やること： **クエリで条件を指定してレコードを取得する**] や [やること： **条件を組み立ててレコードを取得する**] はその「やること」自体で並べ替えができるため、実質的にはその他の 6 種類のやることと組み合わせて使用することになると思います。

3-3. レコードから重複を除去する

「**2. レコード取得に関する「やること」一挙解説**」で紹介した 8 種類の「やること」に続けて [やること： **レコードから重複を除去する**] を使用すると、取得したレコードから重複を除去することができます。
※このやることは、後続のアクションで使用するために一旦取得したレコードから重複を除去するものであり、kintone に保存されているレコードの重複を除去する（重複しているレコードを削除する）ためのものではありません。

カスタマイズ例：[やること： **レコードから重複を除去する**] を使用しない場合

The image shows a Kintone workflow configuration with three steps. Each step has a title bar with a number and a 'コメント入力' (Comment input) field. The main configuration area is divided into two columns. The left column contains settings for the 'やること' (Action), and the right column contains settings for the '条件' (Condition).

Step 1: ボタンをスペースに配置する

- 場所:
- ラベル:
- 上下位置合わせ:
- 追加画面・編集画面を表示した時:
- 条件を追加:

Step 2: 全レコードを取得する

- 取得先アプリ:
- ボタンを押した時:
- 条件を追加:

Step 3: レコードの一覧をポップアップで表示する

- レコード:
- 表示するフィールド:
- 選択方法:
- メッセージ入力:
- OKボタンの名前:
- キャンセルボタンの名前:
- 未選択を許可するかどうか:
- テーブルの幅 (ピクセル):
- 他のアクションの実行が完了した時:
- 条件を追加:

実行結果：[やること：レコードから重複を除去する]

	製品カテゴリー	製品コード	製品名	単価	課金対象期間
☐	kintone	k-0014	セキュアアクセス	2940	年額
☐	kintone	k-0012	kintone ライトコース	9170	年額
☐	kintone	k-0011	kintone スタンダードコース	17640	年額
☐	kintone	k-0004	セキュアアクセス	250	月額
☐	kintone	k-0003	kintone 旧価格	880	月額
☐	kintone	k-0002	kintone ライトコース	780	月額
☐	kintone	k-0001	kintone スタンダードコース	1500	月額
☐	gusuku	g-0010	gusuku Deployit バックアップオプション (旧価格)	110000	年額
☐	gusuku	g-0009	gusuku Deployit バックアップオプション	120000	年額
☐	gusuku	g-0008	gusuku Deployit エンタープライズコース	120000	年額
☐	gusuku	g-0007	gusuku Deployit プロフェッショナルコース	48000	年額

カスタマイズ例：カスタマイズ例：[やること：レコードから重複を除去する] を使用した場合

1
コメント入力

☐

ボタンをスペースに配置する

場所

ラベル

上下位置合わせ

追加画面・編集画面を表示した時

一覧画面の鉛筆を押した時

条件を追加

2
コメント入力

☐

全レコードを取得する

取得先アプリ

ボタンを押した時

ボタン

条件を追加

3
コメント入力

☐

レコードから重複を除去する

レコード選択アクション

キーとなるフィールド

他のアクションの実行が完了した時

アクション

条件を追加

4
コメント入力

☐

レコードの一覧をポップアップで表示する

レコード

表示するフィールド

選択方法

メッセージ入力

OKボタンの名前

キャンセルボタンの名前

未選択を許可するかどうか

テーブルの幅 (ピクセル)

他のアクションの実行が完了した時

アクション

条件を追加

実行結果：[やること： [レコードから重複を除去する](#)]

	製品カテゴリー	製品コード	製品名	単価	課金対象期間
☐	kintone	k-0014	セキュアアクセス	2940	年額
☐	gusuku	g-0010	gusuku Deployit バックアップオプション (旧価格)	110000	年額

解説

[やること： [レコードから重複を除去する](#)] を使用するとキーに指定したフィールドで重複があった場合に重複分のレコードが除去されます。上記の例だと、製品カテゴリーをキーに指定しているため、製品カテゴリーが kintone のレコード、gusuku のレコードがそれぞれ 1 件ずつとなっていることがわかるかと思います。

[やること： [レコードから重複を除去する](#)] は後続のアクションで重複レコードがあると不都合なケースで使います。本書では詳しく説明しませんが、典型的な例として [やること： [フィールド値をレコードから選択するプルダウンを作成する](#)] を使用した、「住所をプルダウンで入力するカスタマイズ」が挙げられます。詳しくは以下の記事をご確認ください。

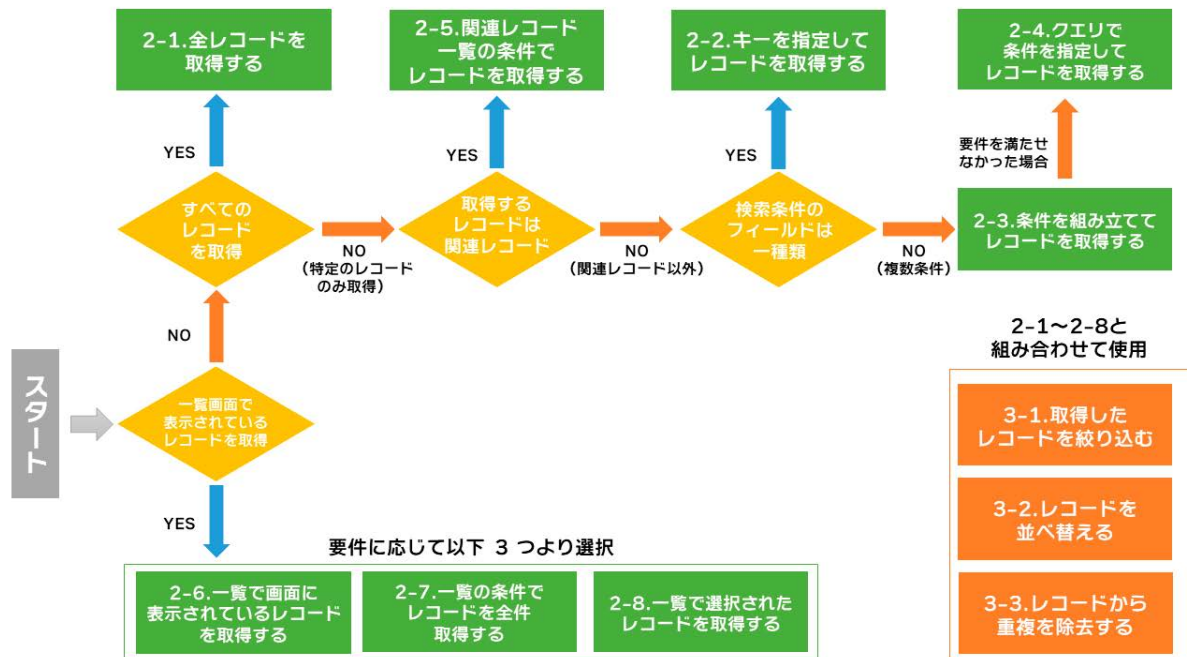
住所をプルダウンで入力する kintone カスタマイズ

<https://support.gusuku.io/ja-JP/support/solutions/articles/36000060055>

4. 「やること」 選択フローチャート

本書ではレコード取得に関する多くの「やること」を紹介しました。さまざまな「やること」の利用例や注意点を読んでいただいても、「結局どれを使ったら良いの?」と悩まれることもあるかと思います。ここでは、そんな方のためのフローチャートをご用意しました。

なお、初めての方にも理解していただきやすいよう、詳細な説明は省いております。要件によっては一部合致しないケースもありますが、そこはご理解のうえ簡易的なチャートとしてご利用ください。



5. うまく動かないときは？

この章では、うまく動かない時に原因を見つけるための方法と、便利なカスタマイズの機能について紹介します。

5-1. カスタマイズは少し作っては確認、少し作っては確認の繰り返しで育てよう

カスタマイズのカスタマイズは複数のアクションを組み合わせで作成することが多く、慣れてくると多くのアクションによって構成される大きなカスタマイズを、一度も kintone アプリで試して動かさずに作ってしまいがちです。

このようにして一度も実行結果を試さずに作成した大きなカスタマイズは、うまく動かなかった場合にどのアクションに原因があるかを見つけるのが非常に大変なことになってしまいます。

複数のアクションを組み合わせたカスタマイズでは、少し作ったら実行して動きを確認する→問題があれば直す→動きを確認する→問題なければ次のカスタマイズを追加する、という手順の繰り返しで作成することをおすすめします。

5-2. うまく動かない時に最初に確認するポイント

カスタマイズを「kintone アプリへ登録」して実行してみると、エラーが出たり、想定とは異なる結果になったりと、うまく動かないことがよくあります。

うまく動かないときは、ひとつひとつ原因となりそうな箇所を確認し、どこに原因があるのかを絞り込んでいくことになります。

カスタマイズのほかに JavaScript やプラグインが入っている時

JavaScript やプラグインは、カスタマイズの動作に影響を与える場合があります。

そのためカスタマイズがうまく動かないときは、まずは JavaScript やプラグインを削除・無効化し、kintone アプリにカスタマイズのみが設定されている状態にして動作を確認してみてください。これは、原因がカスタマイズにあるのか、それとも JavaScript やプラグインが影響して動かないのかを判別し、問題を切り分けるために行います。

kintone アプリにカスタマイズのみが登録されている状態で問題なく動作するのであれば、JavaScript やプラグインが影響してカスタマイズが動いていない可能性が高いです。

逆に、JavaScript やプラグインを削除・無効化してもカスタマイズがうまく動かない時はカスタマイズのカスタマイズが誤っている可能性が高いです。カスタマイズを見直してみてください。

※ドキュメントの「[外部サービス連携](#)」で連携している以外のプラグイン、及び自作 JavaScript ファイルが含まれた状態では、カスタマイズの動作は保証外となります。

外部サービス連携：

<https://docs-customine.gusuku.io/ja/actions/external/>

(ドキュメントで「外部サービス連携」を御覧ください)

※ JavaScript は後でもとに戻せるように、削除する前にダウンロードするなどして保存しておいてください。

5-3. エラーが表示されたとき

エラーが発生した際に表示されるメッセージには、原因を究明するための情報が含まれています。エラーダイアログが表示されると驚いてしまう事もあると思いますが、エラーの原因がそのまま記載されている事もありますので、一度心を落ち着けて読んでみてください。

カスタマインのカスタマイズ画面で表示されるエラー

カスタマインのカスタマイズ画面で表示されるエラーです。

下記の例では「ページ (3): アクション (11) : アクション: 無効なアクションです。 (10)」とあります。冒頭の「ページ (3): アクション (11) :」の部分がエラーとなっているアクション、その後がエラーの内容を示しています。

今回はアクション番号 11 で<条件: 他のアクションの実行が完了した時>に指定されたアクションが使用できない、というエラーです。

カスタマイズを見てみますと、アクション番号 10 が無効化されているため、使用できない状態になっていることがわかります。

ページ(3):アクション(11):アクション:無効なアクションです。(10)

10 コメント入力

ボタンをメニュー位置に配置する

場所 一覧画面メニューの下側

ラベル まとめてセット

追加位置 一番右に追加する

一覧画面を表示した時

条件を追加

11 コメント入力

フィールドに値をセットする

フィールド 顧客名

値 ""未指定"

他のアクションの実行が完了した時

アクション 10

フィールド値が特定の値ならば

フィールド 顧客コード

条件 等しい

比較値 <入力されていません>

条件を追加

カスタマイズ画面に表示されるエラーが解消するまでは「kintone アプリへ登録」を行うことができません。メッセージの内容を確認して、アクションの設定を確認・修正してみてください。

kintone アプリで表示されるエラーダイアログ

このような白いダイアログは、カスタマインによって表示されるダイアログです。こういったダイアログ表示は、カスタマインのカスタマイズでやることや条件の使い方が誤っている場合に表示されるエラーメッセージです。



このエラーは、[やること： [ルックアップを取得しなおす](#)] を、レコード保存前・保存後のタイミングで実行した時に表示されるエラーです。

エラーメッセージの前にある（25）のように、（ ） で囲まれた数字が記載されている場合は、このアクション番号のアクションでエラーが起きている事を意味しています。今回の例では（25）ですので、【アクション：25】のアクションでエラーが起きていることがわかります。



このようなエラーが表示されたら、ドキュメントの「[制限事項](#)」の項目を確認してみてください。
[やること： [フィールド値をまとめてセットする](#)] の制限事項は下記のように記載されています。

制限事項

- レコード編集画面、レコード追加画面のみで動作します。それ以外の画面で使用するとエラーが表示されます。
- レコードを保存するタイミングでは動作しません。レコードを保存するタイミングで「[ルックアップを取得しなおす](#)」した場合の動作は以下ようになります。
 - バージョン 1.131(2021年5月13日リリース)以前の場合、エラーは起こりませんが、ルックアップの取得は行われません。
 - バージョン 1.132(2021年5月20日リリース)以降の場合、エラーが発生します。保存処理は停止しません。

今回のエラーは、[やること： [ルックアップを取得しなおす](#)] が、レコードを保存するタイミングの < 条件： [レコードを保存する直前（削除時は除く）](#) > では使用できないため起こりました。使用するやることを変更するか 0095dd、条件を変える必要があります。

次のエラーは先ほどのエラーダイアログと同様の白いダイアログですが、こちらのメッセージはカスタマイズでカスタマイズを実行した結果、kintone からエラーが返ってきた場合のダイアログです。



kintone API 呼び出しがエラーになりました。
アプリ管理者へご連絡ください。
アプリ管理者向けの説明ページは[こちら](#)

[kintone からの応答]
入力内容が正しくありません。
Code: CB_VA01
record.氏名.value: 必須です。

OK

見分け方は [kintone からの応答] というメッセージが記載されているかどうかです。[kintone からの応答] とあれば、kintone からエラーが返ってきた場合のダイアログであることがわかります。

この場合は、kintone 側からエラーが返ってきているため、kintone のプロセス管理の設定とカスタマイズで指定したステータスの整合性が取れていない、カスタマイズを実行したユーザーが kintone のアプリやレコードに対して権限がないなど、kintone の設定とカスタマイズに齟齬がないか確認する必要があります。

このエラーの場合、[kintone からの応答] に、「入力内容が正しくありません。Code:CB_VA01 record.氏名.value: 必須です。」とありますので、レコードを追加・更新する際に kintone アプリで必須と指定されているフィールドに値をセットしていないためエラーが発生していることがわかります。

このように、エラーメッセージを読むとエラーの原因が判明する、または解決の糸口が見つかることはよくあります。一度心を落ち着けて、エラーメッセージを読んでみてください。

また、[サポートサイト](https://support.gusuku.io/)では、カスタマイズでカスタマイズしているとよく出会うエラーメッセージとその原因を記事としてまとめています。

サポートサイト

(カスタマイズの設定画面右上「サポートサイト」からも開くことができます)

<https://support.gusuku.io/>

サポートサイト上部の検索窓で、エラーと検索してみてください。



検索すると、エラーに関する記事が表示されます。例えば、先ほどご紹介した必須エラーの例は下記の「[入力内容が正しくありません。records\[0\].〇〇.value: 必須です](#)」というエラーが出ました。に詳しく記載していますので、ぜひ確認してみてください。

- [「kintone API呼び出しがエラーになりました」という場合の対応方法](#)
<https://support.gusuku.io/ja-JP/support/solutions/articles/36000243836>
Customineを使ったカスタマイズで、「kintone API呼び出しがエラーになりました」というエラーダイアログが出る場合があります。これを解決するには、kintone側・Customine側...
- [フィールドのエラーをクリアする](#)
https://docs-customine.gusuku.io/ja/actions/error_check/clear_field_error/
概要 フィールドのエラーをクリアします。もともとエラーがない場合は何も起こりません。使い方 「フィールドエラーを表示する」などフィールドにエラーを設定する「やること」を実行したときや、kinton...
- [「入力内容が正しくありません。records\[0\].〇〇.value: 必須です」というエラーが出ました。](#)
<https://support.gusuku.io/ja-JP/support/solutions/articles/36000220365>
こちらは、追加もしくは更新するレコードの中の入力必須のフィールドが空になる場合に発生するエラーです。解決手順 1. エラーが出るアクションの候補を探す まずはこのエラーが出そうなアクションを探します...

ある程度の長い文で検索して想定する記事がヒットしない場合は、検索キーワードの単語をスペースで区切って指定いただくのがおすすめです。

例えば今回の必須エラーであれば、「必須 エラー」のように区切って検索してみてください。自然な文章をキーワードとして検索するより目当ての記事が検索されやすいことが多いです。

5-4. 原因究明に役立つカスタマイズの便利な機能

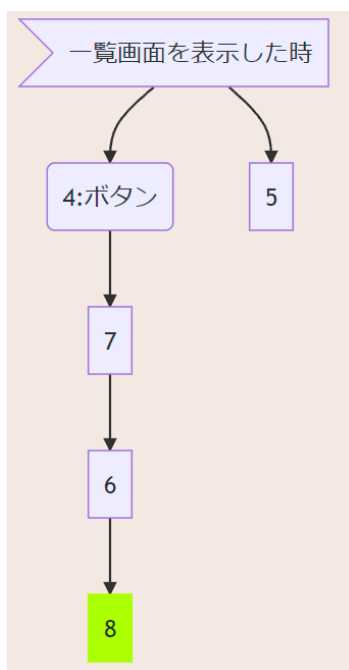
カスタマイズは、うまく動かないときの原因究明に役立つ機能を提供しています。

アクショングラフ

アクショングラフは、<条件：他のアクションの実行が完了した時>などで順番を指定したアクションが、どの順番で実行されるのかを図で表示してくれる機能です。

図でアクションの関連性を見て確認できるので、アクションが想定通りにつながっているかを確認したい場合に便利です。

カスタマイズを実行した時、順番に実行されるアクションが途中で動かない場合は、アクショングラフを確認してみてください。矢印が途切れていたり、順番が間違っているなど、一目でわかるためとても便利です。



アクショングラフ上に表示されている番号は、アクション番号です。なおアクショングラフ上のアクション番号をクリックすると、該当するアクションの設定にジャンプすることができます。

アクショングラフは、ページメニューの「アクショングラフ」を選択すると表示されます。



アクションの無効化

一時的にアクションが実行されないようにしたいときに使用します。

アクションを無効化した後で「kintone アプリへ登録」を行った際に、無効化したアクションはkintone アプリに登録されず、実行されなくなります。

アクションの左上のアクション番号または右上の有効ボタンをクリックすると、そのアクションを無効化できます。



右上のメニューから 無効にする を選択する方法もあります。



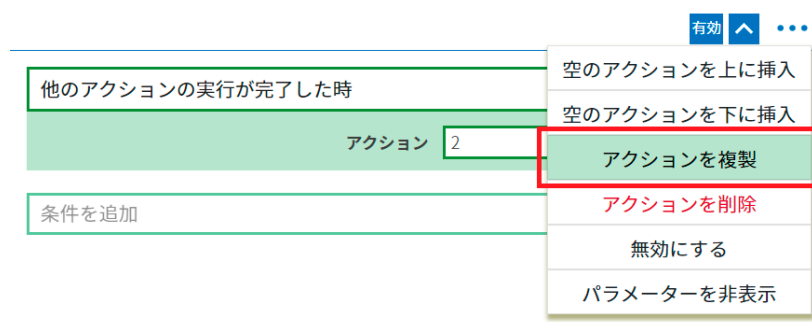
無効化したアクションは、左上のアクション番号がグレーになり、右上には無効と表示されます。



他のアクションの動きを確認するために無効化したり、アクションの設定を変更して動きを確認する際に、変更前の設定を残しておきたい場合にも使用できます。

その際は、アクションを複製して、複製元のアクションを無効化して残しておく、という方法がおすすめです。

アクションの複製は下記のメニューから行ってください。

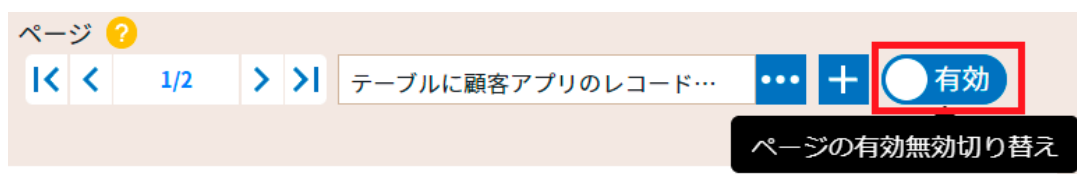


ページの無効化

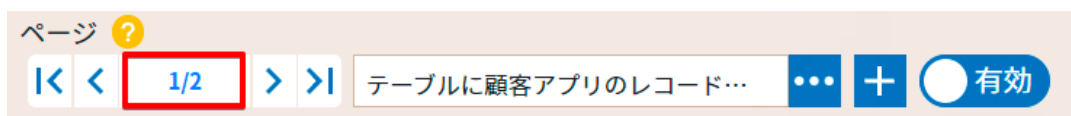
個別のアクションではなく、ページをまるごと無効化・有効化することができます。

無効化したページは、「kintone アプリへ登録」する際に kintone アプリに登録されず、実行されません。

ページの無効化は、カスタマイズ画面右上の 有効 をクリックすると無効に切り替えられます。



または、ページの選択・並べ替え をクリックすると表示される ページ選択 画面でも無効化できます。



このページ選択 画面では、複数ページをまとめて設定できます。ページが一覧で表示されますので、どのページが有効・無効になっているか確認する場合にも便利です。



ページメニューから無効化することもできます。



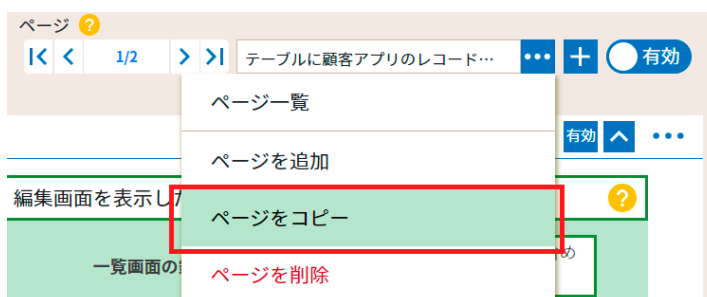
ページの無効化は、他のページの動作を確認したいときに、一旦ページ全体を無効化しておきたい場合などに使用します。この機能を効果的に使うためには、機能ごと、画面ごとにこまめにページを分けてカスタマイズを作成しておく必要があります。

またページの無効化は、次に記載するページのコピーと組み合わせて使用することも多い機能です。

ページのコピー

ページ内のカスタマイズに変更を加える場合は、ページをコピーして無効化し、変更前のカスタマイズの状態を保存しておくことをおすすめします。

変更前の状態を保存しておけば、カスタマイズの変更に失敗した場合などに、コピーしておいたページを有効化し、変更したページを無効化することでカスタマイズを変更前の状態に簡単に戻すことができます。



5-5. レコードが想定通り取得・絞り込みできているか ポップアップ表示して確認する

[やること： [キーを指定してレコードを取得する](#)] や [やること： [クエリで条件を指定してレコードを取得する](#)] のように、条件を指定してレコードを取得するやんことを使用した場合や、取得したレコードを [やること： [取得したレコードを絞り込む](#)] で絞り込んだ場合、想定通りのレコードが取得・絞り込みできているか確認したい事がよくあります。

そういった場合は、本書の例でも取り上げているように取得・絞り込んだ後のレコードを [やること： [レコードの一覧をポップアップで表示する](#)] で確認してみてください。

このように、絞り込んだ結果を一覧で表示できるため、想定通りの絞り込みが行われているかを一目で確認することが可能です。

都道府県名		市区町村名
☐	島根県	川本町
☐	和歌山県	串本町
☐	奈良県	田原本町
☐	大阪府	島本町
☐	静岡県	川根本町

確認のための仮のアクションですので、確認が終わった時にはアクションを無効にしておけば、仮にそのあと条件が変わった場合など、再確認の際にも役立ちます。

5-6. テスト用アプリ作成

カスタマイズをガンガン試してと言われても、既にユーザーが使っている kintone アプリ (以下 本番用アプリ) にカスタマイズすると、誤ってレコードを更新してしまうリスクがあったり、フィールドの値やステータスなど、カスタマイズを試したい状態のレコードがなく実行確認が難しいことなどがよくあります。

そういった時のために、実際にユーザーが使うアプリとは別に、そのアプリをコピーしたテスト用アプリを作成することをおすすめします。



レコード取得編